

胡麻栽培

色ナルヲア。ブ。ラ。ゴ。マ。ト云フ、

〔農業全書^二五穀〕胡麻

早晚の二種あり、白黒赤の三色あり、黒きが食するにハ藥なり、中にもすきとをりて白きが油多し、其さや六角なるもあり、是は實の色うすあめ色也、蒔時分の事、三四五月の雨の後、玄めり氣のあるに蒔べし、白地は胡麻に宜しとて、細砂の肥たるによく出来る物なり、上半月胡麻をうゆべし、下半月は實少し、春蒔たるは虫付て生立にくし、よくそだてば實多し、夏まきは長じ安し、されども實は少し、地のこしらへいか程もこまかにこなし置、うるほひよき時分を待て畦作りし、一反に凡種子を五六合の積りして沙と合せ、むらなき様に蒔べし、蒔たる上をこまざらへにて、さらさらとかるくかき、或柴をたばね、一方に繩を付、蒔たる上を引ならしたるもよし、種子おほひ厚ければ生じかぬる物なり、中うち三度許し、見合よきころに間引べし、肥地は薄きが取實多し、尤蒔糞を多く用ゆべし、かる時分の事、本なりのさや一つ二つ口をひらかんとするを見て刈取、下に筵などをまき、上にもこもむしろにてもおほひ、二三日も蒸をき、其葉腐り落るをふるひすて、小束にたばね、多き時はやねのごとくふき、少きは兩に木を二本立、風にたをれぬ様に念を入、それに長き竹を横にゆひ渡し、此竹に兩方よりたばねたる胡麻を立かけ、口のひらくを見て打とり、又本のごとく兩方より立かけ干、二三日も間を置いて又うつべし、此のごとく四五遍うちて、悉く盡すべし、又胡麻を夫婦にて同じく蒔バ實多しと云り、是妄言に似たる事といへども、陰陽變化の理り、しゆべからず、芸り中うちたびくして、畦の中いかにもきれいにすべし、相應の地ある所にては多く作るべし、厚利ある物なり、旱を好みて兩年によからず、他の作り物は少早痛する所も、胡麻にはくるしからず、

〔百姓傳記 十一〕胡麻ヲ蒔ク事